金峯山寺

金峯山寺は、7世紀に建てられ、吉野山の尾根の高い場所に位置しています。何世紀にもわたって金峯山寺は、日本古来の自然崇拜に、仏教や道教などが習合した修行をともなう山岳信仰の一形態、修験道の根本道場（最も重要な修行の場）です。金峯山寺は、この宗教の開祖である役行者（634–701）によって創建されたとされています。修験道の行者たちは、今でも山上が岳へ向かう厳しい修行の道の出発地点として、この寺を信仰しています。

蔵王堂は 奈良の東大寺大仏殿に次いで日本で二番目に古くて大きい木造建築物で、三体の蔵王権現の像などを安置しています。蔵王権現像は、普段は参拝できませんが、時々一般公開されます。

吉野山は平安時代(794–1185)から桜の名所として有名で、春は訪れるのに良い季節とされています。花が散った後の5月に、修験道の季節が始まります。この時期から9月までの間、金峯山寺には法螺貝の音が響き渡り、伝統的な衣装を着た修験道の行者は、山上が岳までの激しい修行に取り組みます。

金峯山寺は、2004年にユネスコの世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産です。